

● 芸劇、 変身中。

2012年9月、
東京芸術劇場
リニューアル
オープン

2号

AUTUMN
2011

東京・池袋にある東京芸術劇場。

今年の4月から来年の8月まで、全面的な改修工事を行っています。

本拠地のないこの期間も芸劇は立ち止まりません。

「芸劇、変身中。」は芸劇の歩みをお知らせするフリーペーパーです。

東京の＞池袋の＞人々の＞中の芸劇

井上道義

一つの劇場が注目を浴びるのは当然開館後4年間だ。そして建物の設備、立地条件、デザインなどに大いに影響される。

しかし次第に廻りに溶け込み…薄まり?…存在が日常的なものに変化する。これはどんな世界での新人でも同じなのだろう。

しかしそれが輝き続けることが出来るのは、実はそこにいる運営を任された「人…たち」なのだ。そこに神話を作り上げねばならない。例えばカーネギーホール、例えばムジークフェラインのホール、例えばパリ・オペラ座、日本ではやはりサントリーホール。そこにはどのような形であれ莫大な資本が投じられ、数々の名演奏とその記録映像などによる神話＝手の届きそうになく思われる存在として人々がそこに行くこと自体で気持ちの高揚を感じる場所になることを、神殿のように演出することだろう。しかしそこで沢山の人が誤解する。「簡単に手の届かないところ＝非日常の世界である」と。

間違っている!! 神は人の背後にいつも居るし、美しいものもありとあらゆる所に充満しているはずなのだ。僕は京都のオーケストラの監督を8年間やったとき大いに驚いた経験がある。国宝のすぐ隣に居ても興味がない人は見にも行かない、話そうともしない。例えば名も知れぬ裏山の自然はストーリーがなければ只の雑木林なのに、ストーリーがあると人は何の変哲もない場所へ何時間もかけて登り写真を撮る。ひいては有名人が飛び込んだ場所からわざわざ入水自殺を試みたり…。物語に生きる…それは歴史の中に生きるのと同じ。

それならば物語の場である舞台が毎日の役者や僕たち音楽

家は人より沢山生きているのだろうか? きっと絶対本当にどう疑ってもそうに…違いない…。でもそれも主観。人はみんな同じだけの時間を生きているだけ。とても不思議なことだ。劇場がないような世界は無いのだ。時に恋人は恋人を演じ、人と結ばれる瞬間を互いに演出しあう。父は父としての態度を子供にも子供の学校の担任にも演じて見せ、看護婦は、郵便局員は、車掌は、乞食は、皆「それらしく」生きているように見える。

本格的な劇場はそういう人の営みを極限まで集約した…簡単に言うと文化と呼ばれるものの…場所だ。

今、必要以上に機能に徹した劇場建築だった東京芸術劇場が変わろうとしている。どう変わり、東京の＞池袋の＞人々の＞中でどんな位置を占めることになるか? 楽しみなのだ。



いのうえ・みちよし

指揮者。1946年東京都生まれ。14歳で指揮者を志す。指揮を斎藤秀雄、セルジュ・チェリビダッケに師事。2007年オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督ならびに石川県立音楽堂アーティスティック・アドバイザーに就任。オペラをはじめ、演奏会などの舞台演出も行う。マスカーニのオペラ「イリス」(東京芸術劇場主催)で、2009年三菱UFJ信託銀行文化財団賞を受賞のほか、1998年フランス政府芸術文芸勲章(シュヴァリエ賞)、2010年京都市文化功労賞など数多く受賞。

改修レポート

どうなるの芸劇

コンサートホール(大ホール)編

コンサートホール完成イメージ



[下左]オルガンにはカバーがかけられ、足場が組まれているホール内
[下右]名物だった大ホールへ続く大エスカレーターもこうしてだんだんに撤去されていきました



東京芸術劇場の大ホールは、開館以来、700万人以上ものお客様にご来場いただいたクラシック音楽専門のホールです。今は、客席が取り外され、丸裸となったその空間はより一層反響が増し、巨大な楽器さながらです。

その音響反射に一役買っているのが密度の高い大理石壁。芸劇の音の響きの特徴をなしていた一方で、その輝く白さが光を反射してしまい、お客様から「気が散ってしまう」などの声を多くいただいております。今回の改修では反射を抑える加工を施し、ホールにとって最も大切な音響の機能を落とすことなく、より舞台に集中いただけるよう工夫しています。舞台面も広げ、オーケストラと合唱団が同時に演奏する大編成の曲も可能になったりと、音響反射板の改善でアンサンブルがしやすく、生の音がより届くホールを目指して改修をしています。

休館前に来場10万人を突破したランチタイム・パイプオルガンコンサートは、再開までに、劇場リニューアル後もしばらく時間がかかりそうです。ホールの改修工事が終わってから、更にオーバーホールが続くため完全復帰までお待ちいただかなければなりません。ホールが楽器の一部でもある大きなパイプオルガンならではのメンテナンス事情とも言えます。

リニューアル後は新しく“コンサートホール”という呼び名を持ち、提携オーケストラである読売日本交響楽団のコンサートをはじめ、芸劇ならではの企画で皆さんをお迎えする予定です。

東京芸術劇場 音楽公演情報 好評発売中

東京芸術劇場Presents クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会

日本の管弦楽演奏史のエポックメイキング!!
オリジナル楽器オケの名門、
クラシカル・プレイヤーズ東京による
モーツァルト協奏曲…ここに極まる。

2012年2月11日(土) 15:00開演
[会場] 東京文化会館 小ホール

指揮・フルート:有田正広

ホルン:大野雄太

ヴァイオリン:弓 新

クラリネット:満江菜穂子

クラシカル・プレイヤーズ東京

(オリジナル楽器使用、リーダー:戸田 薫)

[曲目] W.A.モーツァルト フルード協奏曲第2番 二長調 K.314
ホルン協奏曲第3番 変ホ長調 K.447
ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K.216
クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

[料金] S席-4,000円 A席-3,000円 B席-2,000円

※全席指定 ※東京文化会館友の会割引有り

[チケット取扱い] 東京文化会館チケットサービス ☎03-5685-0650 ほか

[お問合せ] 東京芸術劇場リニューアル準備室 ☎03-5391-2114

[主催] 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

[助成] 芸術文化振興基金



有田正広 ©Hikaru★



大野雄太



弓 新



満江菜穂子

音楽大学フェスティバル・ オーケストラ 演奏会

日本指揮界の最長老にして作曲家でもある外山雄三と
若き音楽家たちの情熱溢れる演奏がホールに鳴り響きます。
将来のスター・プレイヤーたちの演奏をお見逃しなく!

2012年3月24日(土) 15:00開演
[会場] 東京文化会館 大ホール

指揮:外山雄三

演奏:音楽大学フェスティバル・オーケストラ

参加音楽大学:国立音楽大学、昭和音楽大学、
洗足学園音楽大学、東京音楽大学、
東京芸術大学、東邦音楽大学、
桐朋学園大学、武蔵野音楽大学

[曲目] 武満 徹 弦楽のためのレクイエム
L.ヤナーチェク シンフォニエッタ
R.シュトラウス アルプス交響曲

[料金] S席-2,000円 A席-1,500円 ※全席指定

[チケット取扱い] ミューザ川崎シンフォニーホール ☎044-520-0200

東京文化会館チケットサービス ☎03-5685-0650 ほか

[お問合せ] ミューザ川崎シンフォニーホール ☎044-520-0200

東京芸術劇場リニューアル準備室 ☎03-5391-2114

[主催] 音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会

東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

[助成] 野村財団

施設の貸出始まっています。

リニューアルオープン後のホールをはじめとした施設の貸出について一部受付を開始しています。
劇場HPでお知らせしているほか、東京芸術劇場 リニューアル室ではお電話でのお問い合わせを承ります。
[お問合せ] 東京芸術劇場リニューアル準備室 ☎03-5391-2111(平日9:00~17:45)

東京芸術劇場情報誌「芸劇、変身中。」 第2号 2011年10月31日発行 (不定期発行)

編集・発行……東京芸術劇場リニューアル準備室(公益財団法人東京都歴史文化財団)

〒171-0032東京都豊島区雑司が谷3-1-7 千登世橋教育文化センター地下1階

電話 03-5391-2111 <http://www.geigeki.jp/>

デザイン……川島弘世